

2017年5月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度をみると、アイスランド付近にブロッキング高気圧が分布し、極うずはロシア西部～中央シベリアに位置した。中緯度域では、ヨーロッパ西部、中央アジア～中国北東部、北日本周辺で正偏差となった。200 hPa 風速をみると、ユーラシア大陸では寒帯前線ジェット気流が明瞭だった。また、アジアでは亜熱帯ジェット気流が平年の位置と比べて南寄りを流れた。海面気圧をみると、極付近に高気圧が分布した。中国北東部～ベーリング海で負偏差となった一方、その南側では正偏差域が広がった。太平洋高気圧は全般に平年より強かった。850 hPa 気温は、ヨーロッパ西部～北アフリカ西部、中央アジア～東アジア北部、カナダ、米国西部で高温偏差、ヨーロッパ北部～中央シベリアで低温偏差となった。帯状平均した北半球の東西風をみると、寒帯前線ジェット気流と亜熱帯ジェット気流の分流が明瞭だった。対流圏の全球平均気温は平年より高い状態が続いている。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、インド洋中部～インドネシア付近、中米付近で活発、フィリピンの上東海上～北太平洋の日付変更線付近で不活発だった。アジアモンスーン全体の活動は、平年と比べて活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の上旬～中旬前半は南米～インド洋を、下旬後半はインド洋を東進した。対流圏上層では、インド洋東部～インドネシア付近で南北半球対の高気圧性循環偏差

となった。北アフリカ～日本の南東海上では亜熱帯ジェット気流に沿った波列パターンがみられた。対流圏下層では、太平洋の広い範囲で高気圧性循環偏差となった。海面気圧は、熱帯域の広い範囲で正偏差となった。南方振動指数は+0.3だった。

世界の天候

2017年5月の世界の月平均気温偏差は+0.36°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、3番目に高い値となった。5月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.71°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

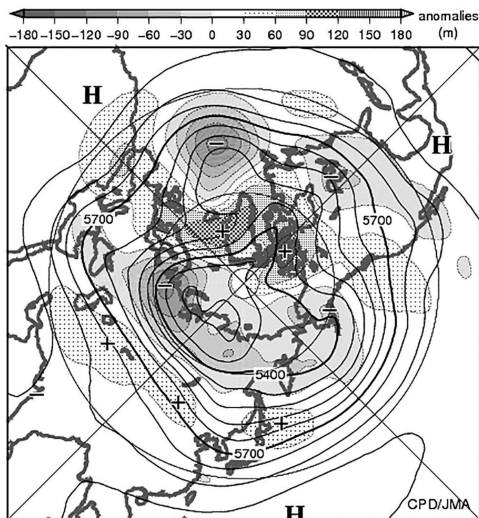
- 東日本からモンゴルにかけて異常高温となり、東日本から朝鮮半島南部にかけて異常少雨となった。
- ロシア北西部～スカンディナビア半島北部で異常低温となった
- ヨーロッパ西部～北アフリカ西部で異常高温となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

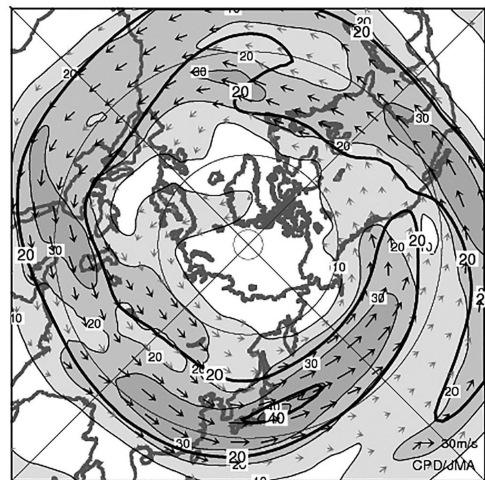
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



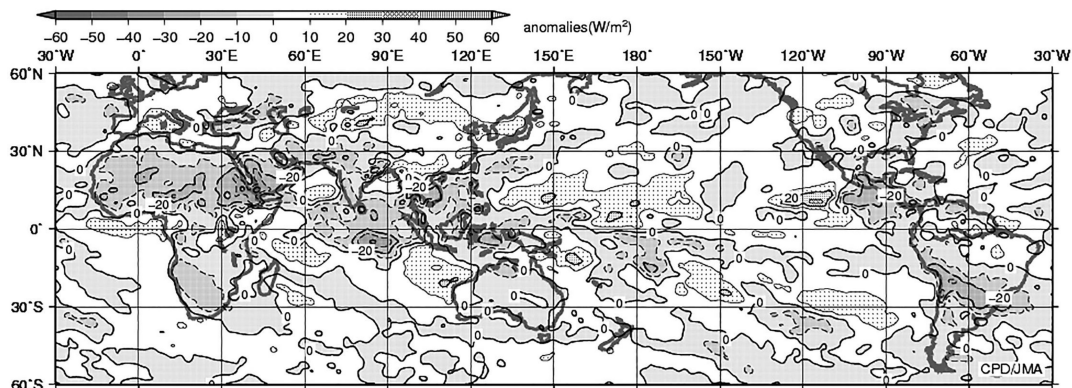
2017年5月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

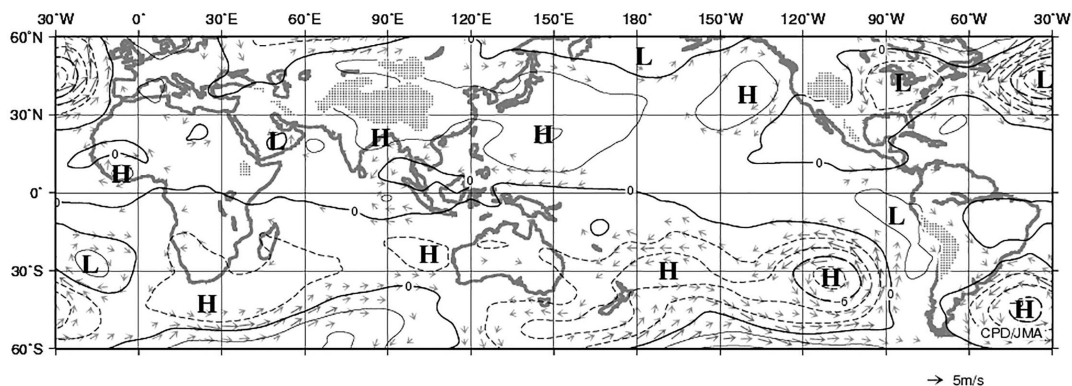


2017年5月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル

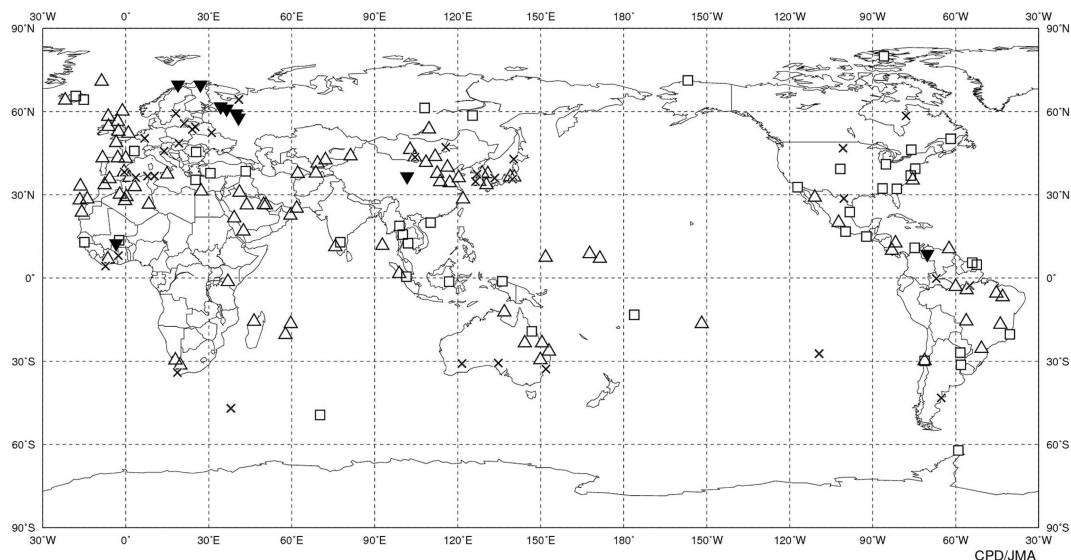
等値線間隔は10 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2017年5月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋
 大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2017年5月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2017年5月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。